

国語科学習指導案

日時 平成18年11月28日(火)5校時

学級 軽米町立小軽米中学校

第1学年(男子9名・女子10名 計19名)

授業者 上森 玲子

育てたい力

- ・文学的な文章を主体的に読み取る活動を通して、叙述に即して内容を的確にとらえる力
- ・読みが深まっていく体験に学びながら、文学を読むことの面白さを受けとめられる態度

1 単元名 自分を見つめる

教材名 「少年の日の思い出」ヘルマン・ヘッセ(国語1・光村図書)

2 単元設定の理由

(1)教材について

学習指導要領「国語」第1学年の目標(3)には、「様々な種類の文章を読み内容を的確に理解する能力を高めるとともに、読書に親しみものの見方や考え方を広げようとする態度を育てる。」とある。

この目標を達成するためには、文学的な文章の主体的な読み取りを通して、それぞれの読みの交流場面を設定し、自分の読みを「確かな読み」に導いていくことが大切である。それにより、物語の内容を的確にとらえる力を育てることができると考える。

これまでの生徒たちは、「単元1 新しい世界へ・『にじの見える橋』」「単元3 心の歩み・『麦わら帽子』・『大人になれなかった弟たちに……』」の授業をとおして、表現に着目して人物の心情を読むことを中心に学習を進めてきた。

本単元で扱う「少年の日の思い出」に登場する人物は、生徒とほぼ同年代の少年たちであり、ちょう集めに熱中する少年の情熱や執着心が見事に描かれている。美しい情景描写や繊細な心情表現など、作者ヘルマン・ヘッセの豊かな情感と確かな技巧とが作品の中に織り込まれており、感受性がふくらむ年頃の生徒たちに、文学を読むことの楽しさを体験をとおして感じとらせるのに適した作品であるといえる。

(2)生徒について

明るく積極的で、挙手・発言が多い学級である。男女ともに国語の学習にも意欲的で、学習課題に対して真剣に取り組もうとする。反面、発問に対する反応は速いが思いこみや語彙の解釈だけで内容をとらえたり、叙述から離れて主観的な狭い読み取りに陥ったり、或いは一人の生徒の解釈に全体が引きずられてしまったりすることも見られる。

学級の中には、文章の読み取りが苦手な理解力がともなわない生徒や、国語の学習に意欲が持てない生徒もおり、個人差が大きい。授業を進めていく上でも、そうした子どもへの配慮や指導の手立てが必要となる。

(3)指導にあたって

友人のちょうを手にしてしまった「僕」が、盗みを犯してしまった自分自身にうろたえ、おびえる姿は、生徒たちに共感をもって受けとめられるであろう。しかし、ちょうに対する熱情のあまり、盗みを犯したり、自分にとってかけがえのない宝物であったちょうを、自分の手でつぶしてしまった「僕」の深い悲しみや絶望感を叙述から読み取り、その心情を理解することは決して容易ではない。

また、自分の犯してしまった罪の深さと向き合い、自分のちょうを自らの手で粉々に押しつぶしてしまう結末に重ねられた作品の主題を理解するためには、一つひとつの場面に描き出されている「僕」の姿をとらえながら、それを「僕」という人物像に重ねていくことが必要となる。

我を忘れるほどに何かに没頭し、それ故に犯した過ちにうちひしがれる「僕」の悲しく切ない思いと、そこに

浮かび上がってくる純粋な少年の姿とを、叙述に即して確かに読み取らせていきたい。

学習に対して意欲的に取り組む学級の雰囲気大切にしながら、主体的に考え、活発に発言させたい。自分が読み取った人物の心情を、語彙や叙述を根拠として積極的に語らせ、それを交流し合いながらさらに自分の見方・考え方を深めさせたい。

教師の発問や働きかけを厳選し、生徒たちの思考の広がりを妨げることのないよう配慮するとともに、読みの方向性を示しながら学習を導いていくための補助発問を用意しておきたい。生徒が活発に意見交換しながら、自分たちの力で読みが深まっていくことを体験的に学び、文学を読むことの面白さや新しい読みの視点を見出していく喜びを味わわせたい。本単元で育成を目指す言語能力は、以下に示すものである。

文脈の中における語句の意味を正確にとらえ、理解すること。(読むこと - ア)

文章の展開を確かめながら主題を考えたり要旨をとらえたりすること。(読むこと - 工)

文章に現われているものの見方や考え方を理解し、自分のものの見方や考え方を広げること。

(読むこと - オ)

登場人物の心情や場面について描写など、優れた叙述を味わいながら読むこと。

(読むこと - 小学校5・6年)

3 単元の目標及び評価規準

(1)単元の目標

- ・作品の構成・展開に注意しながら読み、登場人物の言動に表れた人物の姿や心情をとらえる。
- ・心に残る体験について、必要は材料を集めて書く活動を通して、自分自身の生き方についての意味を見つめさせる。

(2)学習指導目標と評価規準

	学習指導目標	評価規準
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作品に描かれているものの見方や考え方を通して、自分自身に生き方について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作品を読んで考えたことを書いたり、発表しようとしている。 ・ 登場人物の心情の移り変わりを読み取るようとしている。 ・ 友達の考えを、自分の考えと照らし合わせて聞こうとしている。
読む能力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作品の構成や展開、登場人物の心情の移り変わりを読み取る。 ・ 作品を読んで主題を考え、それについての自分の考えをもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間、場所、出来事等に着目して作品の構成や展開をとらえることができる。 ・ 登場人物の心情の移り変わりを本文に即して読み取ることができる。 ・ 作中の人物や出来事について、自分の考えを書いたり、発表したりすることができる。
言語事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 優れた表現にふれることで様々な語句、表現の仕方、修辞法などについて理解を深めさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作中で用いられている表現上の工夫や、様々な語句について理解できる。

4 指導と評価の計画(「少年の日の思い出」:全9時間)

時間	学習内容	評価規準		
		関心・意欲・態度	読む能力	言語事項
1	・全文を通読し、感想をもつ。 ・新出漢字の読み、語句の意味を確認する。	・進んで作品を読もうとする。	・登場人物の心情の移り変わり着目しながら初発の感想をまとめている。	・文中の新出漢字を読むことができる。
2	・作品の構成をとらえる。		・現在の場面と回想の場面できていること、「客」が「僕」であること理解し、物語をあらすじをとらえることができる。	・時間の変化がわかる語句に気づくことができる。
3	・客が思い出を語るまでの心情と情景描写をとらえる。	・登場人物の気持ちがわかる言葉に注目しながら読み取る。	・情景描写と「客」の心情を読み取り、その関わりに気づくことができる。	・情景を表す語句について気づくことができる。
4	・ちょう集めを始めた頃の僕の熱中ぶりを読み取る。 ・エーメールの人物像を読み取る。		・僕が感じていたちょうに対する熱情の強さを読み取ることができる。 ・「僕」がエーメールに抱いていた思いをとらえることができる。	・ちょうへの僕の熱中ぶりを表す語句に気づくことができる。 ・エーメールの人物像を表す語句に気づくことができる。
5	・クジャクヤママユを盗んでしまった僕の心情を読み取る。		・クジャクヤママユに対して僕が抱いていた気持ちを理解することができる。	・僕のちょうに対する気持ちが表れている語句に気づくことができる。
6 本時	・クジャクヤママユをつぶしてしまった僕の心情をとらえる。		・クジャクヤママユをつぶしてしまった僕の心情を理解することができる。	・ちょうをつぶしてしまった僕の心情を表す語句に気づくことができる。
7	・エーメールに謝る僕の心情をとらえる。		・僕のエーメールに対する気持ちをとらえることができる。 ・僕がエーメールに伝えたかったことをとらえることができる。	・エーメールに謝る僕の心情を表す語句に気づくことができる。
8	・ちょうを押しつぶしてしまった僕の心情をとらえる。	・ちょうを押しつぶしてしまった僕の気持ちについて考えることができる。	・ちょうを押しつぶしてしまった僕の心情が表れている語句に気づくことができる。	
9	・最初の場面にもどり、客が思い出を語った理由を考え主題に迫る。	・作品の主題を考えようとしている。	・僕が自分の少年時代の出来事とどのように向き合ってきたか、なぜ友人に語ったのかについて自分なりの考えをもつことができる。	・文章の中に織り込まれ、主題を映し出している語句や表現に気づくことができる。

5 本時の指導

(1) 目標

- ・ 進んで自分の考えを発表したり、友人の発表を聞いて、「僕」の心情の移り変わりを意欲的に読み取ろうとすることができる。(意欲・関心・態度)
- ・ つぶれてしまったちょうを見つめる「僕」の絶望的な深い悲しみを読み取ることができる。(読むこと)

(2) 具体の評価規準

A: 十分満足できる	B: おおむね満足できる	努力を要する生徒への手だて
場面における「僕」の心情を、想像力を働かせながら、丁寧に読み取っている。	場面における「僕」の心情を、展開に沿って正しく読み取っている。	本文に用いられている語句を指摘しながら、全体の中で補足説明する。

(3) 本時の指導の構想

授業の流れ

導入では前時までの「僕」の状況や心情を簡単に確認する。本時で学習課題を確認し、それに向かって読むために、「僕」の心情が読み取れる表現・語句に線を引かせる。全体でその表現・語句に注目しながら、場面に区切って「僕」の心情を生徒に説明させ、意見交流させながら、学習課題を考えさせる。その時「つぶれたちょうを見つめる僕の気持ち」を動作化させながら、より深い理解を引き出したい。最後に読み取ったことを学習シートにまとめさせ、発表を聞きあいながら確認したい。

とらえさせたい『僕』の姿

留め針を抜いた場面

(表現・語句)

「胸をどきどき」「誘惑」「四つの大きな不思議な斑点が、挿絵のよりはずっと美しく、ずっとすばらしく、僕を見つめた。」「逆らいがたい欲望」「大きな満足感」

(主な働きかけ)

- ・ 「見るだけ」の気持ちから「欲しい」と変わったのはなぜか。
- ・ 盗みをしているのに「大きな満足感」しか感じていないのはなぜか。

(とらえさせたいこと)

- ・ 無意識に、ちょうの美しさに魅了されて手に取ってしまった。
- ・ 予想外のすばらしさに、すっかり心を奪われてつい手に取ってしまった。

階段を下りた場面

〈表現・語句〉

「僕の良心は目覚めた」「下劣なやつ」「恐ろしい不安」「冷たい気持ち」「びくびく」「ドキドキ」
「自分自身におびえ」等

〈主な働きかけ〉

- ・「目覚めた」とはどういうことか。
- ・どんなことを考えただろう。
- ・何が怖い(不安な)のだろう。等

〈とらえさせたいこと〉

- ・盗みをした自分の行為に驚き、うろたえている。
- ・盗みをしたことが見つかるのではないかと思って怖がっている。
- ・早く、ここから立ち去りたい。等

エーミールの部屋にひきかえした場面

〈表現・語句〉

「泣かんばかり」「僕の心を苦しめた」「それをすっかり元どおりにすることができたら、僕は、どんな持ち物でも楽しみでも、喜んで投げ出したろう。」等

〈主な働きかけ〉

- ・どうして「僕」はそんなに苦しんでいるのだろう。
- ・自分でつぶしたことがなぜそんなに苦しいのだろう。等

〈とらえさせたいこと〉

- ・自分にとって最高にすばらしいちょうを自分自身の手でつぶしてしまった絶望感。
- ・美しく、かけがえのない宝を台無しにしてしまった喪失感。等

(4) 本時の展開

留意点 評価

段階	学習活動	学習内容	指導上の留意点
導入 5分	1 前時の想起	・次の点を押さえる。 ・クジャクヤママユが「僕」にとって特別な蝶であったこと。	前時の学習の記録をもとに、読み取りの内容を確かめる。
	2 学習課題の確認	・エーミールの部屋へは「せめて一目みたい」という気持ちで入ったこと。	
展開 32分	盗みをしたという気持ちより、自分がつぶしてしまったちょうを見ている方が「僕」の心を苦しめた。のはなぜか。		
	3 サイドラインを引きながらの黙読	・P161:15～P163:10 までを黙読し「僕」の気持ちがわかるところに線を引く。	読 サイドライン（観察） 「僕」の気持ちがわかるところに注目し、適切に指摘することができる。 擬人法などの表現や心情を表す語彙に注目させる。 「僕」の心情を書き込む学習シートの配布。 関・態 発言（挙手・指名） 読 発表（挙手・指名） 叙述に即して「僕」のちょうを手にした時の幸福感から、瞬時に転落的に陥った悲しみの心情の移り変わりを適切に読み取ることができる。 生徒たちとの意見交流を通して、作品についての読み取りを表出させ、内容理解に向かわせる。
	4 場面の整理 留め針を抜く場面	・「僕」の気持ちが読み取れる部分の発表 ・どきどきさせながら・誘惑に負けて ・大きな不思議な斑点が～僕を見つめた。 ・逆らいがたい欲望 ・大きな満足感のほかは何も感じない	
	階段を下りた場面	・良心は目覚めた ・「下劣なやつ」「恐ろしい不安に襲われ」 ・「冷たい気持ち」「びくびくしながら～どきどきさせ」「自分自身におびえ」等	
	エーミールの部屋にひきかえす場面	・「泣かんばかり」 ・盗みをしたという気持ちより～僕の心を苦しめた。 ・すっかり元どおりにすることが～、どんな持ち物でも楽しみでも、喜んで投げ出しただろう。	
5 場面における僕の心情の把握	・それぞれの場面毎に「僕」のどんな気持ちが分かるかを考えて、説明する。		
32分	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>〔留め針を抜く場面の教師の働きかけ〕 見るだけの気持ちから、ほしいと変わったのは何故か。 盗みをして、大きな満足感しか感じていなかったのは何故か。</p> <p>〔階段を下りる場面の教師の働きかけ〕 何が怖い(不安)なのか。</p> <p>〔つぶれたちょうを見ている場面の教師の働きかけ〕 教師が音読し簡単な動作化を取り入れる。 動作化させることで僕の深い悲しみや絶望感に迫りたい。</p> </div> <div style="width: 50%;"> <p>クジャクヤママユに魅了され、無自覚に我を忘れて手にしてしまったこと</p> <p>盗みをした自分自身に驚き、うろたえている様子。</p> <p>描写に忠実にゆっくり自分の体で表現してみる</p> </div> </div>		
	6 本時の学習課題の解決	・本時の学習課題について学習シートに書く。 ・自分にとって我を忘れるほどあこがれ、やっと手にしたちょうを自分の手で台無しにしたことへの絶望感。 ・手に入れた幸福の絶頂からの直後に訪れた谷底に突き落とされたかのような衝撃。 ・自分にとってなににも代え難いほど素晴らしい物だったことが壊れただけでも傷ついているのに、それをしたのが自分であったことの衝撃。 ・かけがえのない最上級の価値の喪失感。	読 学習シート 他者の意見を聞き深めた「僕」の気持ちを適切な語句を用いてまとめることができる。 学習シートにまとめたことを発表しあい、「僕」の心情のとらえを確かなものにする。
	7 次時の予告	・エーミールに謝る僕の気持ちを考えることを確認する。	
終末 13分			

少年の日の思い出 7

一年 番 氏名

〈学習課題〉

盗みをしたという気持ちより、自分がつぶしてしまったちようを見ている方が『僕』の心を苦しめた。のはなぜか。

③エーミールの部屋にひきかえした場面	②階段を下りた場面	①留め針を抜いた場面	本文の表現	
			自分の考え	僕の心情
<p>胸をぐぐぐぐ 誘惑に負けて</p> <p>逆らいたい欲望</p> <p>大きな満足感</p> <p>僕の良心は目覚めた 盗みをした、下劣なやつ 見つけられないか、という恐ろしい不安 大それた恥すべきことをしたという冷たい 気持ち びくびく どきどき 自分自身におびえ</p>	<p>元に戻して、何事もなかったようにしておかなければ、悟った 見つけられないか、極度に恐れ 泣かんばかり</p> <p>自分がつぶしてしまったちようを見ている方が僕の心を苦しめた</p>			交流